

令和2年度

九州地区

参加無料

定員 90 名

申込先着順

橋梁技術発表会 及び 講演会

新型コロナウイルスの感染拡大により中止となる可能性があります。

コロナ対策を考慮
定員変更の可能性有

13:00~13:10 開会の辞 【未定】

日時 令和2年11月6日(金)
13:00~16:40

第1部(技術発表)

会場 レソラNTT 夢天神ホール 5F
福岡市中央区天神 2-5-55

13:10~13:50 製作小委員会

- 製作・溶接・防食に関する研究
～ 製作小委員会における最近の活動報告 ～

申し込み Webサイト <http://www.jasbc.or.jp/>
受付は令和2年9月25日~10月23日

休憩

※申し込みは、Webサイトからのみです。

継続教育 CPDS 認定予定

14:00~14:40 架設小委員会

- 天龍峡大橋(仮称)の工事報告
～ 名勝「天龍峡」に架かる鋼上路式アーチ橋 ～

資料配布 論文およびPPTのpdfは事前にWebサイトにアップ
致しますので、必要に応じて出力し持参願います。

発表概要

14:40~15:20 保全委員会

- 著名橋の補修・補強事例
～ 歴史的価値を守りながら鋼橋を後世に残す ～

休憩

【製作・溶接・防食に関する研究】

製作小委員会は、製作部会、防食部会、耐候性鋼橋梁部会の3部会から構成されます。

製作部会では、裏波ビードを有する片面溶接の疲労強度など、溶接を主体とした研究を行っており、昨年度から組立溶接の規定緩和に向けた研究を行っています。また、i-Constructionへの取り組みとして、鋼材検査証明書(ミルシート)の電子化の検討を行っています。防食部会では、防食の観点からの鋼構造物の耐久性向上を目的とした研究を行っています。腐食環境の厳しい沖縄県に位置する暴露試験場において、橋梁上部工を模した大型試験桁を用いた新規塗料および金属溶射の比較試験、部材面取りの要否確認試験など実施しています。耐候性鋼橋梁部会では、新しい技術を用いた既設耐候性鋼橋梁のさびの評価方法について研究しており、最近では、点検時の外観評価から補修の必要性を判断する方法を検討しました。また、耐候性鋼用表面処理剤を塗布した鋼材の外観の経年変化は製品によって異なるため、暴露試験により経年変化の特徴を確認しています。

本発表会では、製作小委員会3部会の研究成果や途中経過の概略について発表します。

第2部(特別講演)

15:35~16:35

建設業における最近の話題について

国土交通省 九州地方整備局
企画部 技術調整管理官
竹下 卓宏

【天龍峡大橋(仮称)の工事報告】

天龍峡大橋(仮称)は、一般国道474号三遠南信自動車道飯橋道路の一部として建設された鋼上路式アーチ橋(バスケットハンドル型固定アーチ)です。架橋地は名勝「天龍峡」に位置するため、周辺の景観に配慮して、通常のアーチ橋に比べて扁平でスレンダーな形状となっています。

本橋は、アーチリブをケーブルエレクション斜吊り工法で架設した後、アーチ径間の補剛桁とプレキャストPC床版をケーブルクレーンで架設し、側径間はトラッククレーンおよびクローラクレーンにより架設しました。架橋位置が名勝であるため、地形改変を最小とした架設設備としました。また、架設精度向上のために各種の取り組みを実施するとともに、JR飯田線直上の架設であったため、安全対策の徹底を図りました。

16:35~16:40 閉会の辞 橋梁技術発表会
実行委員会
副委員長 内海 靖

【著名橋の補修・補強事例】

私たちの身の回りには様々な鋼橋が存在します。その中には昔からその場所にあり、生活やその町の風景に溶け込み、なくてはならない存在となっている鋼橋も少なくありません。そこで、町の歴史や文化を象徴するかのよう存在する著名橋を対象として、長寿橋梁ならではの特徴を踏まえながら、その価値を損なわずに後世へと残すことができるよう工夫しながら行われた補修・補強の事例を紹介いたします。なお、対象橋梁は比較的近年に補修・補強が行われたもので、技術的な資料が存在するものとします。

開催会場

東京地区	: 10月02日(金)
大阪地区	: 10月07日(水)
東北地区	: 10月16日(金)
北海道地区	: 10月23日(金)
九州地区	: 11月06日(金)
中部地区	: 11月13日(金)

(6地区開催ですが、発表テーマは異なります)

主催:



日本橋梁建設協会
Japan Bridge Association Inc.

<http://www.jasbc.or.jp>

後援:(公社)土木学会西部支部
後援:(一社)九州橋梁・構造工学研究会
後援:(一社)建設コンサルタンツ協会九州支部